

製品名: PIK3CA マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM83003**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	IHC,ICC,ELISA,FC
反応性	ヒト、マウス、ラット、ウサギ
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG2a
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:200-1:1000,ICC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	124kDa

抗原情報

遺伝子名	PIK3CA
別名	PI3K; p110-alpha
遺伝子 ID	5290.0
SwissProt ID	P42336
免疫原	ヒト PI3 キナーゼ触媒サブユニット α の合成ペプチド

背景

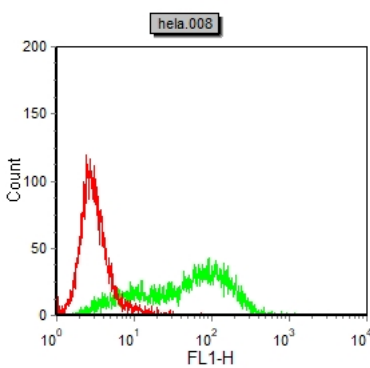
PIK3CA は乳がんにおいて最も変異が認められる遺伝子であり、他のがんにおいても重要な役割を担っています。PI3K 経路の不可欠な要素である PIK3CA は、活性化変異のホットスポットとして 2 つの領域（ヘリカルドメインの 542/545 領域とキナーゼドメインの

1047 領域) を有するがん遺伝子です。PIK3CA と AKT 経路および mTOR 経路との相互作用は、膨大な研究開発の対象となっており、PI3K 阻害剤は最近の臨床試験で一定の成果を示しています。PI3K 単独療法では効果が不十分である可能性は高いものの、チロシンキナーゼ阻害薬 (TKI) 、MEK 阻害剤、PARP 阻害剤、そして乳がんにおいてはアロマターゼ阻害剤といった他の治療法との併用による PI3K 阻害への関心が高まっています。

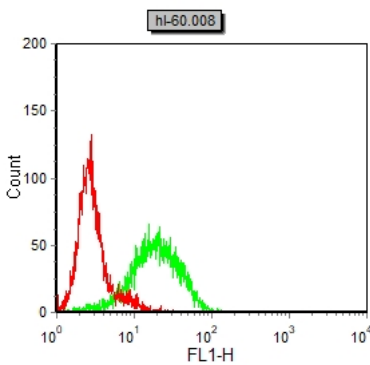
研究分野

PI3K-Akt シグナル伝達経路

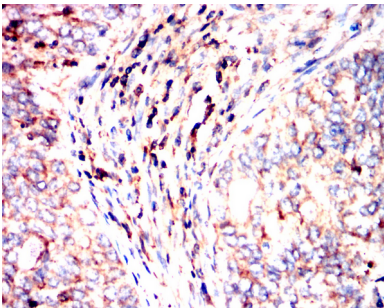
画像データ



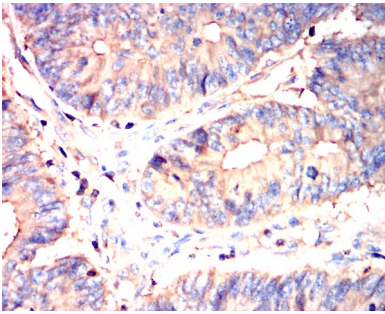
PIK3CA マウス mAb (緑) とネガティブコントロール (赤) を使用した HELA 細胞のフローサイトメトリー分析。



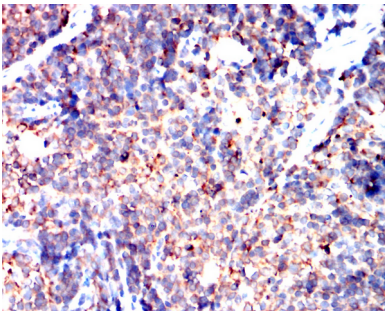
PIK3CA マウス mAb (緑) とネガティブコントロール (赤) を使用した HL-60 細胞のフローサイトメトリー分析。



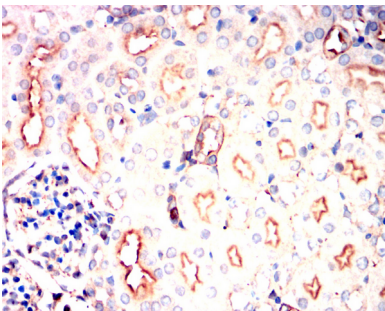
PIK3CA マウス mAb と DAB 染色を使用して細胞質局在を示すパラフィン包埋ヒト子宮頸癌の免疫組織化学分析。



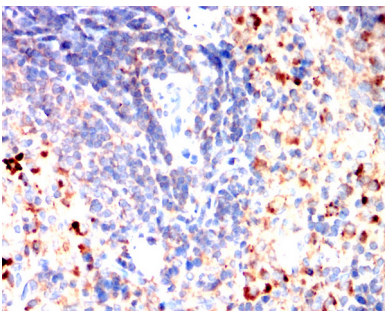
PIK3CA マウス mAb と DAB 染色を使用して細胞質局在を示すパラフィン包埋ヒト大腸癌の免疫組織化学分析。



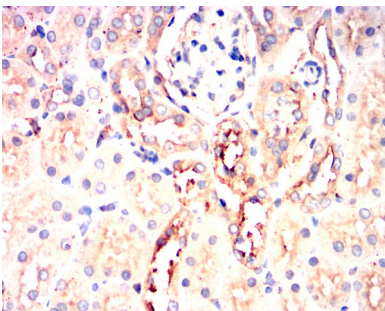
PIK3CA マウス mAb と DAB 染色を使用して細胞質局在を示すパラフィン包埋マウス脾臓の免疫組織化学分析。



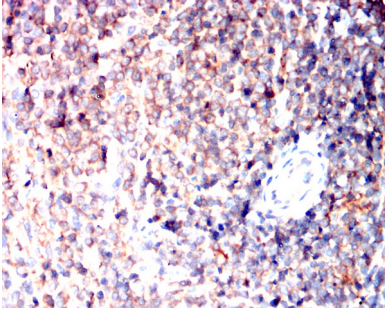
PIK3CA マウス mAb と DAB 染色を使用して細胞質局在を示すパラフィン包埋マウス腎臓の免疫組織化学分析。



PIK3CA マウス mAb と DAB 染色を使用して細胞質局在を示すパラフィン包埋ラット脾臓の免疫組織化学分析。



PIK3CA マウス mAb と DAB 染色を使用して細胞質局在を示すパラフィン包埋ラット腎臓の免疫組織化学分析。



PIK3CA マウス mAb と DAB 染色を使用して細胞質局在を示すパラフィン包埋ウサギ脾臓の免疫組織化学分析。